

さようなら、



高橋ヨシさん (寺地・73歳)

「最近、五十肩ですが、ここの湯は体にふさわしいみたいで、具合がいいです。医者も湯治がいいと言うし、今月も十日以上来ました。来年までの別れが惜しいです」

大谷信雄さん (木場八割・64歳)

「ここはウチとは気分が違うし、遠くへ行くよか、お金がかからなくていい。新しくできるとかも、大広間みたいなたくさんの方が集まれる場所が必要だね」

内藤一良さん (焼酎団地・66歳)

「今日でここも最後というので、ここに愛着を感じている人同士で集まりました。フロ入って、こことの別れを惜しむ、というわけです。彼女と別れるような気分です」

田中トシさん (興野二区・65歳)

「新しいのを建ててからここを壊せばいいのに。なんで住民に聞かないんだらう。みんな、私らの税金でやってるのだから、私らの納得いくようにやってほしい」

あ	な	た	と		
	町	を	つ	な	ぐ

広報

くらさき

1990

10

No. 325

黒埼荘

19年の歴史に幕



宗村ミヨノさん (黒鳥一・62歳)

「黒埼荘の管理を十年ほどしています。お年寄りの人相手ですから、忘れ物とか水洗トイレの使い方とかいろいろ大変。九月一日からはあとかたづけです」

三宮ミセさん (新潟市亀貝・82歳)

「三か月くられたら楽しんで待たれるんだけど、七か月だからね。その間に死んでしまうかもしれないね。ここに来れば知ってる人とも会えてほんとに楽しみ」

加藤信吉さん (木場新田・75歳)

「うちにもフロあるけど、昔からの神様のおきずけだからね、体があつたまるんだ。でも月に一、二回、老人会で来るくらい。今日は最後ということに来ました」

吉田一男さん (蓮方団地・68歳)

「毎日、自転車に乗ってここに通ってました。ここのフロに入っているとカゼをひかないようです。これから自転車使って遊びに行く場所がなくて... どうしようか」